

高いレベル 表現を探ろう



チャレンジ部門は全体的にレベルの高い作品が多かった。崇城大学賞は構成力と描写力の高さに引かれた。本人が表現したいことがしっかりと画面に出ている。「自産自消」というタイトルもよい。特選1席は個性を見つめ、自分なりの表現を探ろうとしている。特選2席はマチエール（絵肌）の面白さがある。ちょっと大人びた作品だと感じた。10代はやりたいことをやったもの勝ち。何を表現したいのか、そのためには何が足りないのか。学びながら探してほしい。